

短葉性ネギ「ねぎたん」の開発とブランド化

きただ みきお
北田 幹夫（園芸研究所）

1 はじめに

「富山しろねぎ」はやわらかく甘味のある根深ネギで中京方面にも出荷されている本県を代表するブランド野菜です。一方、消費者ニーズ調査では「短くて扱いやすいネギを！」との要望が寄せられています。そこで、園芸研究所では、葉がやわらかく、おいしく食べられる短葉性品種「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」の育成を進めるとともに、短葉性ネギのコンパクトな特徴を栽培面に生かし、本県の水田転換畑に適した栽培技術確立するための試験に取り組んできました。

2 成果の内容

1) 消費者ニーズの把握

根深ネギに求められるニーズをグループインタビュー法により調査したところ、「新鮮」、「安全」、「おいしい」とともに、「短く扱いやすい」というニーズが認められました。

近年、ミニ野菜が注目され、ハクサイ、カボチャ等でも商品化されていますが、根深ネギ（長ネギ）においては一般的な荷姿が60cm以上と長いことから、「スーパーでの購入時に買い物袋からはみ出す」、「冷蔵庫に入れる時には長すぎるので切らなければならない」、「一度に食べきれない」などの不便さが指摘されました。

そこで、出荷時の荷姿はこれまでの2/3程度とし、「使い切りサイズのコンパクトなネギ」で、なおかつ「葉がやわらかくおいしく食べられるネギ」を目標に、栽培及び育種の両面から開発に取り組みました。



2) 短葉性品種「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」の開発

(1) 育成経過

「越中なつ小町」及び「越中ふゆ小町」は、根深ネギ品種の千住群黒柄系5品種からなる集団と千住群、加賀群、越津系を含む5品種からなる集団をそれぞれ基本集団とする循環選抜を2回行い、その後集団選抜を繰り返して育成した短葉性品種です。

(2) 品種の特性

市販品種「ホワイトツリー」と比較して、「越中なつ小町」では、草丈及び葉身長は短いものの葉鞘長がやや長く、葉鞘径はやや太く、1本重が大きい、また生葉数は少なく、分けつが少ない、「越中ふゆ小町」では、草丈及び葉身長は短く、葉鞘長が同程度、葉鞘径は太く、1本重が大きい、また生葉数は少なく、分けつが少ないという特徴があります。「越中なつ小町」は「越中ふゆ小町」と比較して、葉鞘径はやや細く葉鞘長がやや長く、同一作型で栽培した場合には早期収穫が可能です。

品質については「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」ともに、ピルビン酸生成量は少なく辛みが少ない、また葉鞘硬度及び葉身硬度値は小さくやわらかいことから良食味です。

表1 収穫時の生育特性(2006年)

品種	草丈 (cm)	葉身長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (mm)	1本重 (g)	生葉数 (枚)	分けつ率 (%)
越中なつ小町	77.1 (97)	51.3 (92)	25.8 (107)	19.7 (104)	184 (110)	5.3 (92)	6.0 (53)
越中ふゆ小町	75.9 (95)	51.6 (93)	24.3 (101)	20.4 (108)	184 (110)	4.9 (86)	6.7 (59)
(対照)ホワイトツリー	79.8 (100)	55.7 (100)	24.1 (100)	18.9 (100)	168 (100)	5.7 (100)	11.3 (100)

注:8月、10月、11月調査の平均値、()は対照比

表2 収穫時の品質特性(2006年)

品種	ピルビン酸 (μ mol/g)	葉鞘硬度 (N)	葉身硬度 (N)
越中なつ小町	5.42 (89)	1.52 (75)	1.51 (72)
越中ふゆ小町	5.36 (88)	1.63 (80)	1.68 (80)
(対照)ホワイトツリー	6.09 (100)	2.03 (100)	2.11 (100)

注:8月、10月、11月調査の平均値、()は対照比

3) 短葉性の特徴を生かした栽培方法

短葉性ネギは葉鞘部の軟白長を約20cmと短く仕上げることから、長ネギのように無理をして溝に植える必要がなく、平床植えが可能です。このような栽培方法では、根張りが良く葉の肥大も良くなります。これは溝植えに比較して植付け位置が高くなることから土壌条件が改善され、湿害による障害が回避されるためと考えられます。また、最初の土寄せは定植後20日頃、収穫前20日頃に仕上げの土寄せを行うことで、土寄せ回数を2~3回に減らすことが可能で、栽培期間は長ネギより約2ヶ月短くなります。これらのことから短葉性ネギの栽培は長ネギに比べて省力的です。

4) ブランド化に向けて

短葉性ネギ「ねぎたん」の商品化に向けて荷姿や商品名についてアンケート調査を行い、試験研究、普及、行政、JAの関係機関で検討した結果、荷姿については全長を40cm、このうち軟白部を20cm以上とし、緑葉を4~5枚、2~3本結束としました。2006年から本格的な生産を開始し、2008年には栽培面積が3haとなり、約70tが生産され県内及び中京市場を中心に出荷されています。市場関係者の評価は概ね良好で、他産地と差別化する意味からもオリジナル品種に対する期待が高まっています。今後、「越中なつ小町」及び「越中ふゆ小町」の種苗増殖体制を整えた上で、マーケット調査を進め2010年からの本格生産を目指しています。

3 まとめ

短葉性ネギ「ねぎたん」は、「コンパクトで扱いやすい」だけでなく、「歯ざわりが良く、おいしく食べられ」、薬味、焼きもの、鍋ものにも用途が広がる万能タイプのネギを目指しています。これに対応するオリジナル品種「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」を今回育成するとともに、水田転換畑に適した栽培技術の開発、ブランド化に向けた取り組みを関係機関と一体になって開始しています。



注) 「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」は、富山県が(独)野菜茶業研究所との共同研究により育成した品種で、現在品種登録出願中。「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」は富山県が、「ねぎたん」は全農富山が商標登録を取得済。